

かみつ
上津校区の

文化財マップ

久留米市

③ 上津シテ遺跡

旧石器時代の石器や、室町から江戸時代にかけての集落跡がみついています。室町時代の屋敷跡では、溝に囲まれた、主屋・副屋、納屋が見つかりました。



発掘調査の様子

⑪ 平野遺跡

古墳時代の豪族の屋敷の跡と考えられる建物の柱跡がみついています。「藤山道」を監視する目的で、この場所に当時の有力者が住んでいたのでしょうか。



白く線取りされた部分が建物の柱跡

⑬ 本山古墳

本山納骨堂の敷地にある全長50m以上と推定される前方後円墳で、藤山甲塚古墳や浦山古墳とならんで、この地域の首長墓のひとつとみられます。納骨堂の裏には古墳の断面が見える箇所があり、何層にも土を突き固めて墳丘が造られたことがわかります。



本山古墳の墳丘



納骨堂裏の古墳の断面露頭

⑲ 大乘妙典六十六部供養塔

安政元(1854)年に街道をゆく牛馬の供養塔として建立されたもので、石碑中央に「大乘妙典六十六部供養塔」と刻まれています。坊ノ津街道が福島往還と分岐する地点にあり、石碑の左右端に「ふくしま・はいんつか」とも記されており、道標の役割も担っていました。市内に残る江戸時代の街道の資料として貴重なものです。



今も分岐点に立っています

⑳ 弘法さん

成田山と浦山公園の間の丘の上にあります。天保年間に旅の僧のお告げにより、疫病払いのために祀られ、今も八十八体の石仏が並んでいます。



参道と弘法大使像



建ち並ぶ石仏の一部

㉑ 浦山古墳群

成田山周辺から浦山公園一帯に広がる丘陵に造られた古墳群で、20数基の古墳が存在していました。現在も浦山公園内に6基の古墳が残っていて、公園入口にある古墳館で資料の展示も行っています。



浦山公園入口の展示館

⑨ 上津土塁

大宰府を守るために造られた土塁で、発掘調査により天武七(678)年の筑紫大地震で一度壊れて、修繕されたことがわかりました。



納骨堂の築山として残る上津土塁



土塁の地下断面

⑫ 豊姫宮などの石祠群

本山天満宮の裏には、大正年間に上津荒木村各所から集められた大きな三祠があり、中央に豊姫宮、右に若宮八幡宮、左に天満社。その左右にも小さな石祠や石碑が並び、古いものは18世紀のものもあります。



中央が豊姫宮、右が若宮八幡宮、左が天満社

⑮ 光勝寺の地藏石仏

宝暦9(1759)年の銘があり、以前は幼児のよだれ止めを祈願したとの言い伝えがありました。



お堂の中に安置される地藏石仏

㉓ 西海道跡

「西海道」は、古代の律令国家が都と地方を結ぶために整備した官道で、道幅が10m近くあり、道の両側には側溝がある立派な道路でした。久留米市内では発掘調査により4ヶ所で確認されていますが、そのうちの2ヶ所は上津藤光遺跡群を構成する車地遺跡、古賀前遺跡での調査で発見されました。



車地遺跡で発見された西海道

㉔ 東林寺跡

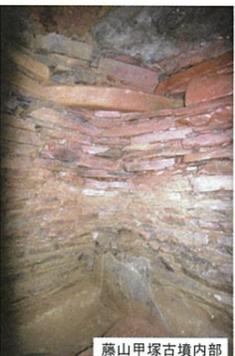
元禄15(1702)年、四代藩主有馬頼元によって有馬家・徳川將軍家の祈禱寺として建立されました。現在は天満宮だけが残っています。

㉕ 藤山甲塚古墳

平成元年に発掘調査が行われ、5世紀中頃に造られた、全長70mの帆立貝式の前方後円墳という事がわかりました。完成当時は葺石で覆われ、埴輪が並んでいたと考えられています。内部は、熊本に多く見られる石障系石室とよばれる石室があり、赤い顔料が全面に塗られています。



藤山甲塚古墳の墳丘と案内板



藤山甲塚古墳内部

③ ^{かみつ}上津シテ遺跡 ^{いせき}

旧石器時代の石器や、室町から江戸時代にかけての集落跡がみついています。室町時代の屋敷跡では、溝に囲まれた、主屋・副屋、納屋が見つかりました。



発掘調査の様子

⑪ ^{ひらの}平野遺跡 ^{いせき}

古墳時代の豪族の屋敷の跡と考えられる建物の柱跡がみついています。「藤山道」を監視する目的で、この場所に当時の有力者が住んでいたのでしょう。



白く縁取りされた部分が建物の柱跡

⑬ ^{もとやまこふん}本山古墳

^{もとやまのうこつどう}本山納骨堂の敷地にある全長 50m 以上と推定される ^{ぜんぱうこうえんふん}前方後円墳で、^{ふじやまかぶつつか}藤山甲塚古墳や ^{うらやまこふん}浦山古墳とならんで、この地域の ^{しゅちょうぼ}首長墓のひとつとみられます。納骨堂の裏には古墳の断面が見える箇所があり、何層にも土を突き固めて墳丘が造られたことがわかります。



本山古墳の墳丘



納骨堂裏の古墳の断面露頭

⑳ ^{だいじょうみょうてんろくじゅうろくぶくようとう}大乘妙典六十六部供養塔

^{あんせい}安政二年(1849)年に建造された石塔

⑨ ^{かみつどるい}上津土塁

^{ださいふ}大宰府を守るために造られた土塁で、^{どるい}発掘調査により天武七(678)年の筑紫大地震で一度壊れて、^{てんむ}修繕されたことがわかりました。



納骨堂の築山として残る上津土塁



土塁の地下断面

⑫ ^{とよひめぐう}豊姫宮などの石祠群 ^{いしほころぐん}

^{もとやまてんまんぐう}本山天満宮の裏には、大正年間^{こう}に上津 ^{だらきむら}荒木村各所から集められた大きな三祠があり、中央に ^{とよひめぐう}豊姫宮、右に ^{わかみやはちまんぐう}若宮八幡宮、左に ^{てんまんしゃ}天満社。その左右にも小さな石祠や石碑が並び、古いものは 18 世紀のものもあります。



中央が豊姫宮、右が若宮八幡宮、左が天満社

⑮ ^{こうしょうじ}光勝寺の地蔵石仏 ^{じそうせきぶつ}

^{ほうれき}宝暦 9 (1759) 年の銘があり、以前は幼児のよだれ止めを祈願したとの言い伝えがありました。



お堂の中に安置される地蔵石仏

㉑ ^{さいかいどうあと}西海道跡

^{さいかいどう}「西海道」は、古代の律令国家が都と ^{りつりょうこっか}地方を結ぶために整備した官道で、道幅が 10m 近くあり、道の両側には樹木

の供養塔として建立されたもので、石碑中央に「大乘妙典六十六部供養塔」と刻まれています。坊ノ津街道が福島ほうのつかいどう 往還と分岐する地点ふくしまにあり、石碑の左右端に「ふくしま・はいんつか」とも記されており、道標の役割も担っていました。市内に残る江戸時代の街道の資料として貴重なものです。



今も分岐点に立っています

39 弘法さん

成田山と浦山公園の間の丘の上にあります。天保年間に旅の僧のお告げてんぼうにより、疫病払いえきびょうばらいのために祀られ、今も八十八体の石仏が並んでいます。



参道と弘法大使像



建ち並ぶ石仏の一部

40 浦山古墳群

成田山周辺から浦山公園一帯に広がる丘陵に造られた古墳群で、20数基の古墳が存在していました。現在も浦山公園内に6基の古墳が残っていて、公園入口にある古墳館で資料の展示も行っています。



浦山公園入口の展示館

がある立派な道路でした。久留米市内では発掘調査により4ヶ所で確認されていますが、そのうちの2ヶ所は上津藤光遺跡群を構成する車地遺跡、古賀前遺跡での調査で発見されました。

28 東林寺跡

元禄15(1702)年、四代藩主有馬げんろく頼元ありまによって有馬家・徳川将軍家の祈禱寺として建立されました。現在は天満宮だけが残っています。



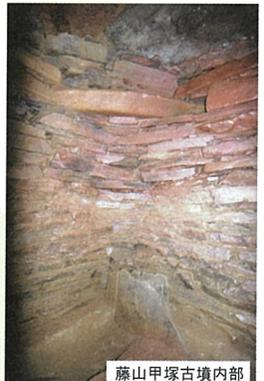
車地遺跡で発見された西海道

49 藤山甲塚古墳

平成元年に発掘調査が行われ、5世紀中頃に造られた、全長70mの帆立貝式の前方後円墳という事がわかりました。完成当時は葺石で覆われ、埴輪が並んでいたと考えられています。内部は、熊本に多く見られる石障系石室とよばれる石室があり、赤い顔料せきしょうけいせきしつが全面に塗られています。



藤山甲塚古墳の墳丘と案内板



藤山甲塚古墳内部

上津校区の歴史

上津校区の歴史は古く、高良台や上津・藤光ニュータウンからは、約2万年前の石器が発見され、当時この地域が狩場として利用されていたことがわかっています。また、筑後地区を南北に移動する際の交通の要衝であり、今でも国道3号や国道209号、高速道路などが通っています。古墳時代に多くの古墳がこの地域に築かれたのは、このような交通の要衝をおさえることが、政治・経済上、きわめて重要であったためでしょう。現在の二軒茶屋交差点付近は、東西の丘にはさまれた関所のような地形をしており、古墳時代には八女方面から藤山を経由する道路が通っていました。その両側の丘の上に浦山古墳や、本山古墳などの大型の古墳がつけられ、道行く人々を見下ろしていました。663年に日本が朝鮮半島で起こした白村江の戦いの前後に、大宰府への南からの侵入を防ぐために藤山道を塞ぐ土塁がつけられました。「上津土塁」と呼んでいるこの土塁は、上津町共同納骨堂の築山として、その一部が現在も残っています。

古代から中世にかけて高良山との関係が非常に深いこともこの地区の特徴です。本山天満宮の後ろにある豊姫神社は、高良玉垂命の妻という伝説もある、豊玉姫を祀っており、筑後国のなかで高良大社に次いで有名な神社であったようです。平成12年から復活した、本山天満宮から高良山に松の若木を奉納する「子の日の松」のお祭も、古代からの高良山との関係の深さを物語っています。

江戸時代にあった上津荒木村と藤田浦村、光勝寺村、藤山村が明治時代に合併して上津荒木村となり、さらに昭和26年に久留米市と合併し、現在の「上津町」となりました。

A. 浦山古墳 (国指定史跡)

5世紀後半に造られた現存60mの帆立貝式前方後円墳で、内部に家形石棺が納められています。石棺は精巧な作りをしており、内面は赤く塗られ、直弧文と呼ばれる文様が彫られています。直弧文が施された横口式家形石棺は、筑紫君一族の墓といわれる筑後市の石人山古墳と共通しています。成田山の境内の横にあり、寺の受付で鍵を借りて石室を見学することができます。



浦山古墳の墳丘



浦山古墳の家形石棺



浦山古墳石棺内部

こくらくじこふんぐん
B. 極楽寺古墳群(市指定史跡)

えんぶん
数基の円墳で構成される6世紀後半頃に造られた古墳群で、現在は2基が残っています。

もとやま
昭和47年、本山団地造成に伴って発掘調査が実施され、ガラス玉じかんや耳環へんけいもんきょう、変形文鏡などが出土しています。



調査時の極楽寺1号墳

こくらくじ
C. 極楽寺の
ろくじぞうぼさつすぞういたび
六地藏菩薩圖像板碑
(市指定有形文化財)

板状の自然石の表面に六体のお地蔵さんを線で表現してあり、室町時代末の作と考えられています。



極楽寺前に立つ板碑

くるまちいせき
① 車地遺跡

きゅうせつきじだい
旧石器時代の石器から近世の陶磁器まで、様々な時代に使われた道具や、生活の痕跡がみつかっています。中でも旧石器時代の石器は様々な種類が見つかっていて、この地域で狩りが行われていたことを示しています。



車地遺跡で発見された旧石器

ささいばる いせき
⑥ 笹井原遺跡

上津・藤光ニュータウン建設にともなって発掘調査された遺跡です。弥生時代前期末頃の一大集落跡では、丸い形のたてあなじゅうきょ竪穴住居や、いしぼうちょう石包丁、土器などが発見されました。また、平安時代の井戸からは、多量の土器が出土しています。



上津・藤光ニュータウン調査時の笹井原遺跡

こがまえ いせき
② 古賀前遺跡

弥生時代のドングリを貯蔵していた穴や、奈良時代の官道、中世の有力者の屋敷と考えられる建物や井戸、区画溝などが見つかりました。



古賀前遺跡の脇を上津バイパスが通る

上津校区の指定文化財

	名称	時代	内容
A	浦山古墳(国指定)	古墳	5世紀に造られた古墳。内部に家形石棺を安置。
B	極楽寺古墳群(市指定)	古墳	径20mの円墳2基を保存。
C	極楽寺の六地藏菩薩 図像板碑(市指定)	室町	線刻された像は頭光を備え連座に立つと伝承。

上津校区の文化財

	名称	時代	内容
①	車地遺跡	旧石器～ 江戸	旧石器時代の石器や奈良時代の官道「西海道」を発見。
②	古賀前遺跡	弥生～室町	弥生の集落跡からは、湧水を利用してドングリの灰汁抜きを行った貯蔵穴を発見。
③	上津シテ遺跡	旧石器～ 江戸	旧石器時代の石器や室町時代の屋敷跡を発見。
④	原ノ前遺跡	室町	溝から土師器が出土。
⑤	原屋敷遺跡	平安	大溝から土師器が出土。
⑥	笹井原遺跡	弥生～室町	弥生時代の大きな集落跡で、土器の他に鉄器、石器、管玉、炭化米など多量の遺物が出土。
⑦	松本屋敷遺跡	平安～室町	溝などから土師器や須恵器が出土。
⑧	本山天満宮遺跡	縄文・弥生	いろいろな石器や弥生土器を発見。
⑨	上津土塁跡	飛鳥	大宰府を守る防衛施設。
⑩	十ノ江遺跡	弥生	弥生土器が出土。
⑪	平野遺跡	縄文・古墳	古墳時代の館跡を発見。
⑫	豊姫宮などの石祠群	大正	本山天満宮の裏手に祀られている石祠群。
⑬	本山古墳	古墳	埴輪や須恵器を発見。
⑭	本山古墳群	古墳	数基の円墳で構成される
⑮	光勝寺の地藏石仏	江戸	宝暦九年の銘がある
⑯	屋敷A遺跡	縄文・鎌倉	石器や土器を発見。
⑰	屋敷B遺跡	弥生	甕棺墓を発見。
⑱	屋敷古墳群	古墳	藤光天満宮境内などに大石あり。
⑲	本山D遺跡	弥生	ため池のほとりで石器を発見。
⑳	本山F遺跡	弥生	石器や石材が散布。
㉑	本山E遺跡	縄文	ため池のほとりで石器を発見。
㉒	平野窯跡	古墳	須恵器が散布。
㉓	大乘妙典六十六部供養塔	江戸	安政元年建立。薩摩・坊ノ津街道の分岐点にあり、道標の役も担う。

上津校区の文化財

	名称	時代	内容
②4	瞳ヶ池遺跡	旧石器・縄文	上津小学校の裏山で石器を発見。
②5	中尾山遺跡	古墳	須恵器を発見。
②6	水神遺跡	縄文	鏃などの石器を発見。
②7	西海道	奈良～平安	大宰府と地方を結ぶ古代の官道。
②8	東林寺跡	江戸	有馬家、徳川將軍家の祈祷寺跡。
②9	ドイツ兵俘虜収容所	大正	第一次世界大戦の捕虜が一時期収容された。
③0	新堤遺跡	旧石器・縄文	槍先や鏃などの石器を発見。
③1	薩摩・坊ノ津街道	中世～江戸	参勤交代にも使われた主要道路。
③2	西浦山遺跡	縄文・古墳	石器や須恵器が散布。
③3	西浦山古墳群	古墳	数基の円墳があり、須恵器が散布。
③4	向野遺跡	縄文・古墳	石器や須恵器・土師器などを発見。
③5	北宇土池遺跡	旧石器・縄文	いろいろな石器を採集。
③6	大坪池遺跡	縄文・古墳	石器や生焼けの須恵器を発見。
③7	北上村古墳	古墳	円墳。竹藪の中に一部が残る。
③8	浦山遺跡	縄文	石器を作る石材が散布。
③9	弘法さん	江戸	八十八体の石仏が並ぶ。
④0	浦山古墳群	古墳	浦山公園内に6つの古墳が残る。公園内の「古墳館」で古墳時代の資料を展示中。
④1	ホイト池瓦窯跡	奈良	瓦を焼いた窯跡。
④2	池田窯跡	古墳	須恵器を焼いた窯跡を2基発見。
④3	ヨイタ遺跡	古墳	土師器・須恵器が散布。
④4	鉾立古墳	古墳	円墳。石室は崩壊。
④5	甲塚遺跡	旧石器・縄文	縄文土器や石器を発見。
④6	福島往還	江戸	久留米から八女福島へ通じる道。
④7	向日焼古墳群	古墳	3基の円墳が現存。小型の竪穴式石室があり、丹塗土器を発見。
④8	釜口遺跡	古墳	祭祀用の土器を発見。
④9	藤山甲塚古墳	古墳	5世紀に造られた古墳。
⑤0	甲塚古墳群	古墳	数基の円墳で構成。現存せず。
⑤1	飛嶽山頂遺跡	不明	土師器が散布。
⑤2	藤山道	古墳	古墳時代から存在していたと考えられる。
⑤3	藤吉遺跡	不明	土師器が散布。
⑤4	専修寺跡	不明	行基が開祖と伝わる。
⑤5	辻古墳	古墳	古墳の名残の高まりが残る。
⑤6	辻遺跡	縄文・室町?	石器や土師器を発見。
⑤7	三井電気軌道福島線	大正～昭和	日吉町から八女の福島間を走行。

上津校区の歴史年表

時代	西暦	上津校区のできごと	日本のできごと
旧石器時代	20000 年前	高良台などが狩場として利用される。	狩猟採集生活を営む。
	10000 年前		
縄文時代	5000 年前		稲作伝来
弥生時代	紀元前 400 年頃	笹井原遺跡にムラがつくられる。 竪穴住居や貯蔵穴、甕棺墓などが 営まれる。	邪馬台国の卑弥呼が 魏に使いを送る。
	紀元後 300 年頃		
古墳時代	400 年頃	古賀前遺跡に高床建物が建つ。	大和王権の成立 古墳が全国で つくられる。
	500 年頃	釜口遺跡に円形周溝墓がつくられる。 上津シテ遺跡に竪穴住居が建つ。	磐井の乱 (527 年) 仏教公伝 (538 年)
	600 年頃	甲塚古墳や浦山古墳がつくられる。 本山古墳がつくられる。 平野遺跡の豪族居館が建設される。	
飛鳥時代	700 年頃	極楽寺古墳群がつくられる。 上津土塁がつくられる。	白村江の戦 (663 年) 筑紫大地震 (678 年) 平城京遷都 (710 年)
奈良時代	700 年頃	西海道がつくられる。 日本書紀に「藤山」の地名がみえる。 御井郡ができる。	平安京遷都 (794 年) 源平合戦
平安時代	1000 年頃	笹井原遺跡の井戸が利用される。 文献に「豊比咩神社」の名がみえる。	日宋貿易
鎌倉	1200 年頃	薩摩街道 (坊ノ津街道) が使われ始める。	南北朝の争乱
	1300 年頃	文献に「上津荒木氏」の名がみえる。	
室町	1400 年頃	極楽寺の六地藏菩薩凶像板碑が建つ。	秀吉の九州攻め (1587 年)
戦国	1600 年頃	藤田浦の高良山領が没収されて藤田浦村 ができる。藤山村が公認される。	
江戸	1700 年頃	久留米藩主有馬頼元が東林寺を建立する。	

文化財に関するお問い合わせは

久留米市市民文化部文化財保護課まで
電話 0942-30-9225 FAX 0942-30-9714

[久留米市ホームページ](#)

→ [まなび・あそび](#)

→ [文化財・歴史](#)

上津校区の文化財マップ

平成 28 年 3 月 31 日

発行：久留米市

編集：市民文化部 文化財保護課

印刷：株式会社 東広



藤光公園には、上津・藤光ニュータウン発掘調査に関する解説板があります。



本山古墳群の近くには上津荒木氏の子孫で、久留米城下屈指の豪商山本家のお墓があります。



本山天満宮拝殿の絵馬(左)と象の装飾(右)



昭和天皇の即位を記念して当時の公民館前で撮影された写真。(個人蔵)



もとやまてんまんぐう こそまいぬ 本山天満宮の狛犬

天保14(1843)年の作です。長野(現八女市内)の石工、池田久右衛門の銘があります。



さかのうえてんまんぐう こそまいぬ 坂の上天満宮の狛犬

嘉永6(1853)年の作です。台座には山北(現うきは市内)の石工、江藤惣右衛門の銘が見られます。



高良台には旧陸軍の施設があり、大正3年~4年の一時期、第一次世界大戦時のドイツ人捕虜296名が収容されていました。



しやにちしんどう 社日神塔

春に豊作を祈り、秋に収穫を感謝する祭事が行われています。



この先、相川交差点まで昔の街道らしい風景に

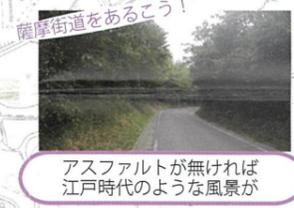


高良台演習場をぬけて急に風景が現代的に



やま かも 山の神

無病息災・五穀豊穡の神として祭られています。戦時中途絶えましたが、現在は地元住民により「山の神祭」が復活しています。



アスファルトが無ければ江戸時代のような風景が



福島往還と薩摩街道の交差点



Y字路を左へ進みます



この先、相川交差点まで昔の街道らしい風景に



高良台演習場をぬけて急に風景が現代的に



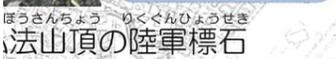
やま かも 山の神

無病息災・五穀豊穡の神として祭られています。戦時中途絶えましたが、現在は地元住民により「山の神祭」が復活しています。

上津校区の文化財マップ



陸軍用地を示す標石。
かつて久留米が「軍都」と呼ばれていた名残を感じます。



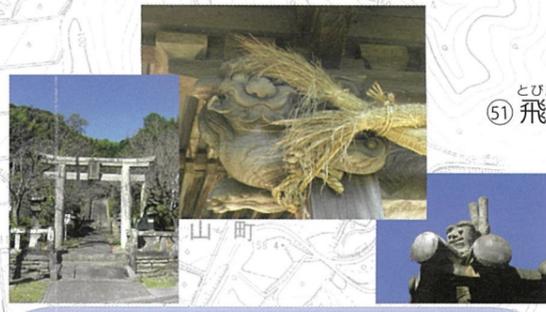
藤山甲塚古墳は平成元年に発掘調査が行われました。左は発掘調査の様子、右は古墳全体の写真です。



1: 成田山境内にある浦山古墳の石棺(せっかん)。2: 路肩のコスモス。3: 藤光公園のモニュメント。4: 浦山公園の入り口。4: モニュメント横の浦山古墳館内



あおやぎたつこ とうし ひ
青柳多津子刀自の碑
明治四十年に青柳多津子氏が藤山甲塚地区の山林を開墾し、梨の樹を植えたことが「藤山なし」の起源と言われています。大正初期には藤山地区のほとんどの農家が梨を植えるようになりました。米や麦のほかには主要な産業が無く苦しかった藤山村民の生活を大幅に改善しました。また、戦時中にブドウ栽培も普及しました。



江戸時代のおもかげが残る旧藤山村。写真左は日吉神社鳥居、写真中央は同神社の獅子の彫り物、写真右は同社の社殿上のかわいいシャチホコ(?)



みいくんこうづまくんかいひょうせき
御井郡上妻郡郡界標石
ブロック塀かとおもいきや郡界標石！
御井郡と上妻郡の境界を示す境石で、元禄四年頃の造立と考えられています。



みいしこくはちじゅうはちかしょじゆんれい
三井四国八十八か所巡礼
四国八十八か所に倣って久留米市内各所に設定され、上津校区にも複数箇所あります。春秋2回の大参りがあり、市内の札所巡りが行われています。

凡例	
卍 神社	— 校区の範囲
卍 寺院	● 主な遺跡の範囲
■ お堂	● 古墳
■ 祠	○ 失われた古墳
■ 地蔵	■ 石碑
■ 石 (信仰の対象)	
■ 記念碑	
■ 窠跡	
	私有地には無断で立ち入らないようにしてください。